

報道関係者各位(企業情報)

2017年(平成29年)1月4日

ファンケル 池森賢二会長 年頭訓示 「実りの酉年 甘さを捨て勝負を」

株式会社ファンケル(本社:横浜市中区)の代表取締役会長 グループCEO 池森賢二は2017年1月4日、グループ従業員への年頭訓示を行いましたのでご報告いたします。



新年明けましておめでとうございます。

今年の干支、酉年の「酉」は収穫した作物からお酒をつくるという意味もあり、実りをもたらす年です。

しかし「医療費」「年金」「介護」などの負担は膨張しており、2030年には2000兆円を超えるという試算もあります。少子高齢化も進み、年間の出生者は100万人を下回りました。労働人口は1995年の8700万人から2025年には7000万人を割り込むと予想されています。一方で、有価証券の保有は60才以上が全体の72%を占めており、富の配分と格差が激しく進行し、若者が将来の不安からモノを買わなくなっています。将来に希望を持てる社会をつくらないと購買行動は変わってこないと思っています。

世の中はますますスピードを上げて変化する時代に 敏感な対応が必須

社会をめぐる環境も激変しています。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」や「AI(人口知能)」が本格的に活用され、企業や家庭に入り込む時代に入りました。特にAIはさまざまな範囲で応用され、人手不足を補うことも考えられます。世の中の変化にもっと敏感に対応しないと、生きていくのが難しい社会になっています。

「小売業界」も様変わりしています。ドラッグストアで食品が取り扱われるようになり、業態問わず、お客様が好むものを販売する「同質化」が進行しています。地方百貨店の衰退やコンビニエンスストアの大型化、ドラッグストアの新業態やPB(プライベートブランド)の展開など、各業態で今後の世の中の変化にあわせた思考錯誤が続いています。ネット通販の世界では寡占とも言える状況が生まれつつあります。こうした状況にどう対応していくのかも見定めていかねばなりません。

そうした中で、「美と健康」の分野はさらなる可能性を秘めています。60代以降の女性も美しさを求めて、化粧品にお金を使っています。50代以降の人が集まると、健康談義となり、健康をいかに維持するかへの関心はさらに高まっています。一方でこの分野には、異業種からの参入が殺到しており、強敵が益々増えています。

ファンケルらしさを強く前面に打ち出し、ブランド構築を強化

そうした中で、今年当社はどのような方向に進むのか。化粧品は新しいことに力を入れていかねばなりません。昨秋に発売したマチュア世代向けの化粧品「ビューティブーケ」に力を入れ、60代以上のお客様をしっかりと掴んでいくことが必要です。個人の角層を分析して最適な化粧品を提案する「スキンソリューション」も技術の高さを誇示する上で重要な製品です。肌の弱い方向向けの「FDR」は当社の創業理念を体現するシリーズであり、皮膚科など専門ルートへの推奨を進めていきます。「無添加」で「安心・安全」というファンケルらしさを強く前面に打ち出していきます。

サプリメントは、売り上げで他社に先行を許し、パイオニアとして悔しい思いをしてきました。昨年は機能性表示食品の伸長などで、他社より少しは伸びましたがまだまだ、第一人者としての地位奪還とは言えません。健康寿命の延伸など、サプリメントの重要性を一般の消費者も感じています。サプリメントはさらに市場が伸びる余地が大きいと感じています。昨年増設した第二研究所で得た研究成果や、新しい販売チャネルの開拓などを通じて、スピード感を持って事業を拡大させていきます。

ファンケルのブランド構築も重要です。当社のものづくりの姿勢をまとめた冊子「ファンケル100の事実BOOK」やテレビCMで企業価値を伝える「スタンス広告」、研究所や工場、特例子会社ファンケルスマイルを一般の方に見学いただき、当社の本当の姿を外部にしっかりと伝える努力を行ってください。また、今後はファンケルの製品をどのチャネルでも手に入れられるようにしていきます。そのためには、店舗、通販、ネットの連携が必要です。特に社員の顔やサービスが直接お客様に伝えることのできる直営店舗の役割は今後さらに重要です。

厳しい一年になることを自覚 「甘さを捨て『勝負の年』に」

中期経営計画の1年目は、広告先行戦略が奏功し、100点満点で「98点」の出来でした。2年目の昨年は前半は好調でしたが、後半は計画通りに進んでいません。マス広告の影響を、広く拡散させる定石が通用しなくなっている可能性もあります。

今年は「勝負の年」です。「勝負」とは、勝てば報奨、負ければペナルティということです。業績を上げて、利益をきちんと確保する方針です。ファンケルの将来は今年にかかっています。甘さを捨てて、厳しい一年になることを自覚し、ファンケルのために自分が何の貢献ができるかを考えて、毎日の仕事に取り組んでください。みんなで元気に頑張りましょう。

本件に関するお問合わせ先
株式会社ファンケル 社長室 広報グループ
〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1 ファンケルビル
電話:045(226)1230/FAX:045(226)1202